

運転はいろいろなものに影響される



運転は、その時の気分や車内の状況、アルコール(飲酒)、薬物などさまざまなものに影響されるんだよ。運転に自信があるからといって油断は禁物！

まとめクイズ

Yes、Noのどちらかを選んでください

Q1. ビールなどアルコール度数の高くない酒類はコップ2杯までなら飲んで運転しても罰せられない。

Yes No

Q2. 車内でお気に入りのCDのボリュームを上げて聞くことはストレス発散になり、窓を閉めていれば他の車の迷惑にもならないので、いいことづくめだ。

Yes No

Q3. 気持ちが浮わついたり、時間に余裕がなくて焦っていると「不注意」や「見落とし」を招きやすい。

Yes No

Q4. 車は友達との友情を深める道具でもあるので、同乗している友達から「もっと速度を上げて追い越せ」といわれたら、ついその通りにしてしまう。

Yes No



→解答は次ページに！



Q1. No

道路交通法では、たとえ少量のアルコールでも飲酒運転は厳しく罰せられます。

- ・酒酔い運転
5年以下の懲役又は100万円以下の罰金
違反点数35点
- ・酒気帯び運転
3年以下の懲役又は50万円以下の罰金
呼気1リットル中 違反点数
 - ・0.25mg以上 25点
 - ・0.15mg以上0.25mg未満 13点

Q2. No

お気に入りの音楽は、渋滞しているときなどは気持ちをリラックスさせてくれますが、ボリュームを上げすぎたり、音楽に没入すると、交通状況の変化などを見落としてしまう危険があります。

Q3. Yes

気持ちが浮ついていると、運転に集中できなくなったり、誤った判断をしがちです。

時間に余裕がないなど、焦っていると、冷静な判断ができなくなり、無理な進路変更、速度の出しすぎなど危険な運転をしてしまいます。

Q4. No

友達とのドライブは確かに楽しいですが、安全運転が第一。友達の命を預かっている、ということ意識した運転をしなくてははいけません。雰囲気流されて、あとで後悔するようなことをしてしまつては、元も子もありません。



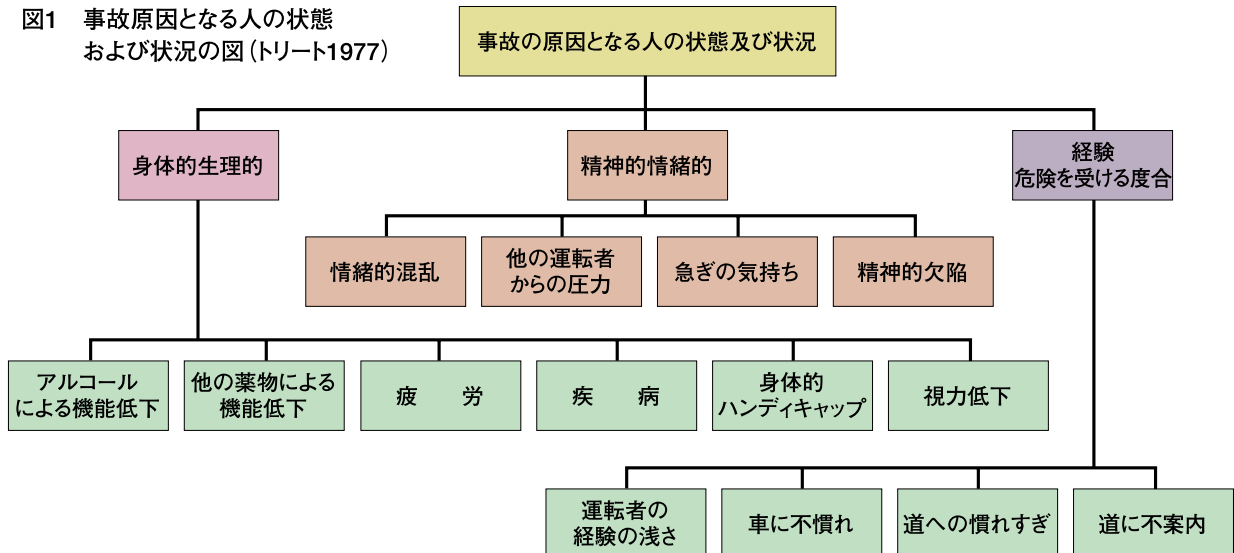
急ぎや焦りの気持ちが危険をまねきます

コラム
1

事故につながる「人」の要因

急ぎの気持ちやイライラも事故の原因になります。

図1 事故原因となる人の状態および状況の図(トリート1977)



D・シャイナー 交通心理学入門 サイエンス社

●交通事故の要因で一番多いのはヒューマンエラー

ふだんの生活から、安全意識を育てよう。

運転する「人」が安全の鍵を握っている

交通事故は、人間と車両と道路環境（周りの車、道路、天候など）の3つの要因が絡まって起きます（下図）。

たとえば運転中に突然ブレーキが効かなくなって起きる事故は、メカニズムや材質に問題があれば車両的要因、運転者がブレーキオイルの補給を忘れていればヒューマンエラー（人間的要因）で起きたこととなります。

ヒューマンエラーで多いのはドライバーによる「よそ見」や「安全不確認」、「見落とし」、「スピードオーバー」などがあり、事故の90%を占めているといわれています。

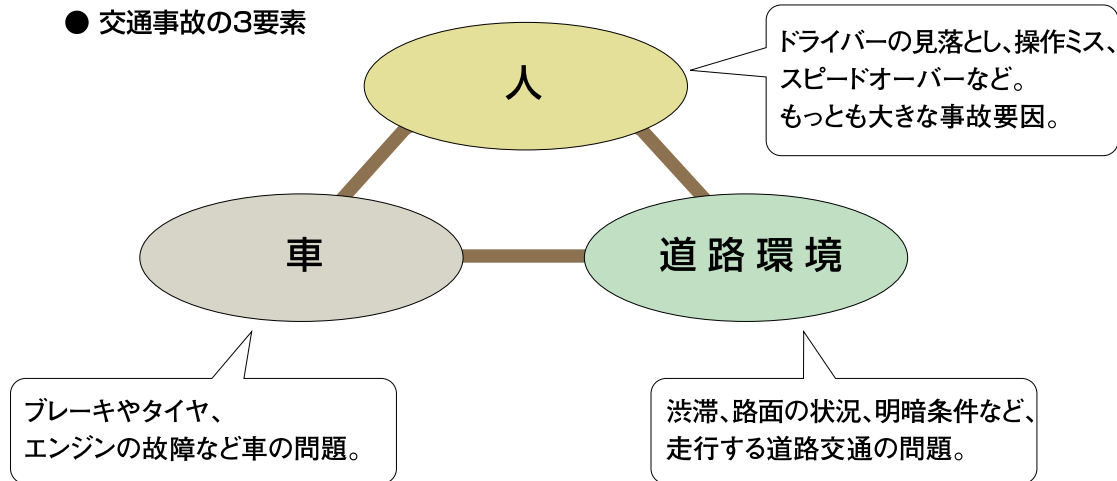
ヒューマンエラーが多いというのは、いいかえれば運転する人が安全の鍵を握っているということになります。

新入社員に運転トレーニングをするわけ

企業などに就職するとき、普通免許を持っていることが条件になることがよくありますが、入社後の新入社員教育の中に、運転トレーニングを取り入れているところが少なくありません。輸送業界はもちろんですが、それ以外の企業でも同様です。

普通免許を持っているのに、なぜ入社後改めて運転トレーニングをするのでしょうか。人の要因による事故を減らすことが大きなねらいです。

● 交通事故の3要素



コラム 2

運転には普段の生活が出る

外国の研究者が「人はふだん生活するように運転する」と半世紀以上に指摘しています。

仕事で車を使っている企業では、車内が汚れていたり、散らかっている社員ほど、運転ミスが多い傾向があると指摘しています。

優良ドライバーを調べたある研究者は、知能指数、身体能力は他の運転者と変わらないが、その人たちは、職場では信頼があり、忠実で、まじめで、注意深く、よく働く社員、家庭でも同様の特徴を持つ夫、父だったと報告しています。

運転は人間性とかかわっているということです。



• 家族や知人の運転する車に乗っていて、ふだんの性格が出ているなあ、と思うところや、思いがけない一面を知った、という経験はありますか？ どんなところがそうでしたか？



• 自分を冷静に見て、どんなところが車の運転に向いていて、どんなところが向いていないと思いますか？



• 将来就きたいと思っている職業に、車の運転が必要かどうか調べてみましょう。一般企業でも営業職などで運転免許が必要な場合がよくあります。





MESSAGE

運転は「手足」でなく、「頭」ですもの

岡村和子 警察庁科学警察研究所 交通科学部交通科学第2研究室 主任研究官

運転とは、ブレーキやアクセルを踏む、ハンドルを回すといった「操作」のことを指すと思いませんか？ もちろん、安全に運転するためには、ブレーキ操作、ハンドル操作といった基本的な動きが適確にできることが不可欠です。しかし、器用に操作できること、高い身体能力があることイコール安全で成熟した運転ができるということにはなりません。むしろ、急ブレーキを踏むとか、ハンドルを切るといった具体的な操作に入る前の段階である、「認知」と「判断」の過程の方が、事故予防の観点からは重要です。

考えごとや脇見をしていたことによる発見の遅れや判断の誤りといった認知エラーをおかさないためには、自分自身の体調管理や心理状態の把握ができること、周囲の人の発言や他のドライバーの動きに流されず冷静な状況判断ができることなどが要求されます。つまり、自分の行動がもたらす結果とそこに潜む危険性を知り、自分自身の行動をコントロールすることが求められているのです。